

東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名:全学覚書に基づく交換留学)

所属学部/研究科・学年(留学時):総合文化研究科修士二年

留学先大学・学部/研究科等:台湾大学社会科学学院政治学部

留学期間:2012年2月～2012年6月

卒業・修了後の就職希望先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 5.民間企業
6.起業 7.その他(博士課程に進学)

1. 留学先大学の概要

1945年、日本統治時代に設立された台北帝国大学が中華民国政府により接收され、国立台湾大学に変更され、それ以来、台湾における最も権威ある大学である。

2. 留学の動機

台湾大学を選んだきっかけは、戦後60年代日台関係史という自分の研究テーマということにあります。そのほか、台湾なら、生活習慣も日本とあまり変わらず、治安も良いということです。

3. 留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

各大学の語学研修所のパンフレット・申請書類は、台北駐日経済文化代表處に常備されています。台湾への留学をお考えの方は、一度、代表處を訪れるか、各大学のWebサイトなどで正式な書類を入手される事をお勧めします。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

中国大陸出身者の場合、普通の日本籍の学生より手続きが多いので、事前にネットで調べて時間の余裕を持ち、準備した方がいいと思います。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

台湾の健康診断技術はアジア一だそうですが、健康診断は向こうで行うことをお勧めである。なお、事前に特別な予防接種などを受ける必要もないのではないと思われる。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

賠償保険のついた安めのプランの留学生保険に加入することを勧めます。例えば、ANAによるもの。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

台湾大学の場合、英語も通用されるので、初めての段階、言葉への心配はそれ程多くないが、やはり事前に少し中国語を学んだ方がいいと思います。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

台湾の場合に、申請時及び入学後に必要となる中国語を身に付けるには、事前学習が必要となります。

4. 留学生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

台湾大学の場合、学生寮があり、家賃も安いので(月2万円前後)、お勧めです。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

台北の場合、5月から11月まで台風が多く、事前にネットで調べてしっかり準備したほうがいいです。台湾料理は種類が多く、値段も安いそうで、いろいろ試しに食べてみることも留学生活の一つの楽しみではないと思われる。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

台湾、特に台北の場合、治安への心配にはあまり必要はないと思いますが、台湾国内の旅を楽しみにしたいなら、事前に調べた方がいいと思われる。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

台湾の場合、毎月の生活費は東京より安く、普通なら、月三万円ぐらいで過せるとされる。

・留学に要した費用総額とその内訳

学費は東京大学の分を支払いにし、留学先で生活費及び家賃の分だけで用意すれば大丈夫である。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

台湾大学の場合、中国大陸出身の学生に奨学金がありますが、それ以外の東大生はなさそうである。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

週末なら、台北から初め、あちこち見て旅の楽しみにしたほうがいいと思われる。

⑦留学中の就職活動等への対策(行った場合)

台湾大学において、せめて短期の派遣留学のため、就職活動をする時間はないかもしれませんが、現地での就職可能性について調査することが出来るかもしれません。

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

自分の場合に、事前にネットで台湾大学で教師として務めている国際政治学の有名な教授について調べた上、履修登録の時、その先生たちの講義を選ぶこと。

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業に関しては、一人の先生が毎日2時間ほど教えてくれるレギュラーコースが中心。もちろん、習熟度別。オプションクラスもあるが、パンフレット掲載されていても、応募者が少ないと開講されない。特に、広東語やビジネス中国語などは期待できない。入学手続きの前に、過去の開講実績を問合わせるべきだろう。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

向こうでの講義を履修しても単位をもらえないのは普通ですが、単位のためではなく留学先の学生や先生と良い関係

を作り、その国のことをもっと理解できるように、自分の問題関心に基く三つぐらい講義を履修した方がいいと思います。

④学習・研究面でのアドバイス

留学案内 <http://www.roc-taiwan.or.jp/study/index.html>

台湾へ留学するなら、取りあえずここを読むと良い。語学留学できる大学の紹介や、留学手続き(入学申請、ビザなど)、現地での生活について日本で説明されている。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

台湾の大学における語学研修は、政府の政策と監督に従って行われている。その分、授業の質に対する保証や奨学金などの便宜も提供されているが、出席には非常に厳しいそうである。

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

台湾留学の人々は英語が上手ですので、学校生活なら、中国語がそれ程上手ではなくても大丈夫と思いますが、留学であるため、やはり現地の人々ともよく付き合った方が勉強になれると思います。その場合、台湾人がとても優しく、話しやすいので、心配せずに、どんどん声をかけてみれば、留学の楽しみを味わうことができると思われる。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

中国語を勉強する場合、中国に行く人も多い。しかし、中国大陸という途上国の生活に不安な人も、日本に次ぐアジアの先進国 台湾なら何とかなるかもしれない。同じ漢民族で、同じ公用語が用いられるが、政治や経済は全く別であり、日本人に対する感情も大きく違う。慣れない外国での生活に対するストレスもあるが、同時に日本人同志よりも日本人に友好的な台湾社会での生活に快適さすら感じられるだろう。

7. 留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

現在のところ、これからの留學生活を楽しみにしているところ、帰った後、改めて感想などを記入させていただきます。

②留学後の予定

修士論文を無事に通過できたら、博士進学するつもりである。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

中国語を勉強する場合、中国に行く人も多い。1年あるいは、もっと短く夏・春休みだけ行くなればその方がいい。だが、4回生で就職活動を終わった7月、あるいは9月から3ヶ月、半年だけ留学したいという人には、台湾の方が便利で、意外と安上がりかもしれない。

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

http://www1.doshisha.ac.jp/~mnawa/study_in_taiwan.htm 台湾留学ガイド